

家族とお母さんの仕事

笠間小学校五年 仁平 絢子

私の家族は、父、母、兄、姉と私の五人です。父が仕事をし、洗濯、掃除、料理などの家事は、すべて母がしているごく普通の家庭です。

今年の春、急に母が「お友達のお店をお手伝いするから、お外にお仕事に行くね。」と言いました。お友達のお店で働いていた人が急に辞めてしまったそうです。お昼前から、夜九時ごろまでの時間だったので、家族みんなが「えー、夕飯はどうするの。」「洗濯出しっ放しじゃん。」と次々に文句を言い始めました。

いよいよ、母が仕事に行く日も、みんな不満そうでしたが、母は「行って来るね。」と、元気に出かけて行きました。最初は、なれない家事をする父を見て、私は文句ばかり言っていました。そのうち父は、さしみ包丁を買ってきたり、楽しそうに夕飯の準備をするようになりました。もともと兄は料理が好きなので、変わった料理を作ってくれました。私も姉と一緒に、五人分の山のような洗濯をたたみました。なれない仕事に母は「ちよっと疲れるけど、家族

みんながお手伝いしてくれるから、とてもうれしいよ。」と言って、楽しそうでした。

数カ月後、お友達のお店で新しく働いてくれる人が見つかり、わが家は、またもとの生活にもどりました。私は、男であるお父さんはお仕事をし、女であるお母さんは家事をすることが当たり前だと思っていました。でも、今回の事で大切なのは、みんなが協力し、感謝の気持ちと相手を思いやる気持ちを持つことだと思いました。家族とは、男女とは、一緒に喜んだり、心配したり、手伝ったり、共に支え合っていくものだと思います。これからも家族仲良く生活していきたいです。

叔父の家庭から学んだ事

笠間中学校一年 岡野 耀聖

僕には、埼玉の高校で教師をしている叔父がいます。叔父は、野球部の監督もしています。

叔父の奥さんも東京の高校で教師をしています。しかし、一人目の子供が生まれるため産休に入り、その育休中に二人目の子供も生まれました。そのため、小さい二人の子供の面倒を見なくてはならなくなりました。

叔父は野球部の顧問になって以来、部活の早朝練習に始まり、二十時半に終わる放課後の部活まで、ずっと野球漬けという毎日です。平日は、ほとんど子供達に会えません。日曜日にも練習試合があるので、家族で過ごせるのは週に一日だけです。唯一の休み、本当ならばゆっくり体を休めたいところですが、少しでも奥さんを楽しませてあげようと、掃除に洗濯などの家事や子供達に絵本の読み聞かせをしたり、夜は寝かしつけたりするなど育児も手伝うそうです。僕はその事を聞き、とても驚きました。男の人は仕事、女の人が家事や育児をこなすのが当たり前だと

思っていたからです。

僕は、この男女共同参画について考えた時に、叔父の家庭を思い出しました。家事も育児も男女が協力してやっていくものだと思うようになったからです。当たり前のように普通はなかなかできていない事のように感じます。そう考えると叔父の家庭は、素晴らしい男女協力が出てきているのではないかと思います。そのため叔父の家庭では、家族全員がとても仲良く生活していて、とても温かく和やかな雰囲気になっています。男女が協力するという事は、片方に負担がかたよらないようにするためにだけでなく、良い家庭の雰囲気作りにもなると思います。だからどここの家庭でも、男女協力を取り入れれば、良い家庭が増えると思います。僕も将来、叔父のような家庭を持つてたいなと思います。